

### 第3回玉名市総合計画策定審議会 議事録

日時	令和7年12月17日(水)9:30～
会場	玉名市役所4階 会議室
参加者	出席：入江委員、上村委員、大野委員、小山委員、後藤委員、齊土委員、坂口委員、坂梨委員、澤田委員、杉本委員、高田委員、田畑委員、津田委員、中野委員、中山委員、藤森委員、本田委員、山崎委員、山本委員、渡邊委員 欠席：崎山委員、永田委員、橋本委員、丸山委員

#### 1. 開会

#### 2. 会長挨拶

#### 3. 議題

事務局：澤田会長に議事の進行をお願いする。

会 長：委員会規則に沿って、本会議は原則公開となっている。

##### (1) 基本構想（案）について

〈事務局より資料1、資料2の説明〉

委 員：基本目標1について、8月豪雨では想定を超える災害であった。市でもどの地区の被害が大きかったのか把握されていると思うが、今後また、このような災害が発生しうるのは考えておかなければならない。想定外の災害だったという諦めにならぬよう、早急に被害のあった地域の状況を把握し、少しでも軽減されるような対策の検討を進めていただきたい。

事務局：市民意識調査でも、安全・安心なまちづくりの推進についての重要度は突出して高くなっている。これは8月豪雨直後のアンケート実施であったことが起因しているとも考えているが、安全・安心なまちづくりは市民生活の根本となるものであり、気候変動・災害激甚化の常態化も念頭に置いて、次期計画でも最重要の1つとして検討していきたい。

委 員：第2次計画の総括とアンケート結果から検討されていると思うので方向性や内容面は基本的に資料のとおりかと思う。細かいところで、基本目標6について、健全な行政運営の項目だが、ITによる効率化やDX等はもちろん大事だと思うが、ベースとなるのはムリ・ムダ・ムラ業務の見直しであると思う。必要のない業務まで含めDX化する必要はない。今後、取組等への落とし込みがされていくと思うがムリ・ムダ・ムラの排除が基本になると思う。また、良い計画であって

も、行政だけで取り組むのでは意味がなく、市民へ落とし込んでいくことが重要。情報発信はしていると思うが、見に行かないと情報は得られない。やはり積極的な落とし込み、理想では市民を巻き込んだ形で計画を進めていく事、特に実施に向けては大事であり検討いただきたい。

委員：基本目標5について、子育ての面で、全国的に「こどもまんなか社会」に取り組む姿勢があることは皆さんご存じだと思う。玉名市がどのような動きになるのか、現場として応援している。市長の思いの中に、こどもまんなかを掲げ、子育て支援の抜本強化とあり、その中でも学校給食費の完全無償化についてだが、小中学校については議会等でも話が進んでいると思うが、現状では幼稚園・保育園は含まれていない。3歳以上の保育料は無償だが、非課税世帯等を除く、多くの家庭が給食費負担があり、幼稚園・保育園も含めて無償化を視野に入れていただいているのかと思う。また、学童の利用率も増えていると聞く。夏休み等長期休暇時は、お弁当を持たせて学童を利用し、保育料も負担している。幼稚園・保育園の保育料は無償化であるのに、働いている人を支援するための学童には保育料がかかってしまう。現場の声をさらに聞きながら支援策を検討いただきたい。

事務局：健全な行政運営については、今後、主要施策、施策区分を設定する中で、行政評価による事務事業の無駄削除、最適化について表現していく。その要素は可能な範囲で基本構想へ反映できるよう調整したい。また、計画策定後の市民への落とし込みについては、成果指標等を設定し、毎年度進捗管理することで、取組状況を市民にお示し出来ればと思う。こどもまんなかに向けた市の取組として、学校給食費の無償化や体育館の空調設備については、既に話が進められているところである。保育園等の給食費や学童の費用に関するご意見については、担当課へフィードバックし、総合計画内でも施策の内容を検討していきたい。

委員：単に行政サービスの無駄削除の他に、各課職員の内部的な業務にも、ふりかえると無駄なところはあると思う。内部的な業務の効率化も、持続可能な観点からすると必要であるため、その切り口も検討いただきたい。

会長：こどもまんなかについて、大きいところから始めるということだとは思うが、必ずエアポケットのように細かい部分の意見も出てくるので、委員意見を担当課へつなぎ問題意識を持っていただくようにお伝えいただきたい。

委員：基本目標3について、市民ニーズの分析結果に「働く場となる産業が少ない」「魅力がない」という意見が出ているが、魅力ある企業はたくさんあると思っている。しかし、それが伝わっていないのが問題で、伝えるための動きが必要であると思う。また、基本目標4について、市民意見「交通の便が悪いから」とある。確かに市内だけでみると不便な面もあるかもしれないが、JRがあるのはすごい強みであると思う。近隣市町には無いところもあり、JRがあることで学生が集まりやすいという強みもある。JRなど交通事業者とも連携を強めるなど、利便性・

優位性を活かした取り組みを進めていく必要があると感じた。

会 長：交通ニーズに関しては、利便性が悪い部分はあるものの、新幹線駅含め JR があり、高速道路も近いと、一定の優位性はあると思う。それを活かしていく取り組みが必要である。

事務局：地元企業の魅力の伝わりづらさについては、地元学生の就職につながるガイダンスの開催や、商工分野の企業 PR 等、地元企業の魅力がより伝わる施策を拡充させていく必要がある。また、公共交通に関しては、JR や長洲港、高速道路などの一次交通については、これまでも本市の強みとしてきたところであり、市内移動などの二次交通の部分で、バス路線の減少や減便に対する評価と捉えている。担当課においても、交通不便地域を設定し、バス路線の廃止等を補えるよう、乗り合いタクシーを整備している。利用者からは利便性を感じていただき好評を得ているところではあるが、利用されていない方からはネガティブな情報からこのような評価となっている面もあると思う。行政施策の伝わりづらさ、見せ方についても今後配慮していく必要がある。ただ、市民のニーズとしてそのような意見を頂いている状況にはあり、整備して終わりではなく、今後も要望等を確認しながら施策に反映していく姿勢を保つとともに、その姿勢を計画にも盛り込んでいきたいと考えている。

委 員：今回、基本目標がより具体的となり良いと思う。文化協会としては、基本目標 2 から「文化」という言葉が無くなってしまったのが残念ではあるが、学びや挑戦は非常にいいことだと思う。こういったものを次世代に残し、そして次世代につないでいくという言葉があると良いと思う。要望ではあるが「文化」という言葉もぜひ残してほしい。また、施策区分での話とは思いますが、音楽の都玉名としての取組も強化してもらえればと思う。

委 員：基本目標 2 に関しては多岐にわたるという印象。玉名市には、様々な市民団体があり、施策を考え実施する課も多くある。1 つの課や関連団体、関心のある市民だけではなく、横のつながりを持つ機会を創ることで、広がりをもせたり、協力しより大きな効果を生みやすい企画を考えたりできると思う。そのような場について、施策として検討いただきたい。

委 員：資料 2 の市民意識調査結果について、今後継続的に玉名市に住んでもらうためには、若い方の意見が反映された方がいいのではないかなと思う。まず、調査対象者が 20 歳以上となっているが、18 歳以上が成人となっているのになぜかと思った。また、資料 2 の 3 ページについて、住み続けたくない理由の表が、既に家を建て住み続ける人が多いであろう 50 歳以上なのはなぜか。この下の世代が社会増減が多い世代だと思うが、ここに反映されていないのはなぜかと感じた。基本目標 3 に関して、産業面で働く場所については記載があるが、働き方の多様化について、正社員だけが正ではなく、特に女性では短時間でなければいけない家庭

の事情や正社員で働きたいけど出来ない何かしら事情があったり、働いていたが辞めてしまいその後の社会復帰の難しさを抱えていたり、働き方の多様化が求められていると思う。そういった視点も踏まえてほしい。最後に、基本目標 5 について、「こどもまんなか」とあり学校のことがあるのに該当部署に教育総務課が入っていない、保護者の意見も必要で PTA も関係あるのにコミュニティ推進課が入っていないなど気になった。先ほどから話が出ている横のつながりをお願いしたい。

事務局：市民意識調査結果の抜粋については、分析結果の根拠として一部のみ示している。資料 2 の 3 ページで 50 歳以上のクロス集計結果のみ掲載しているのは、交通や日常生活の不便さの項目について、50 歳以上の方からが最多回答であったため。詳細は、報告書本編に各年齢別のクロス集計結果を掲載している。委員のおっしゃるとおり、若者や女性の視点を重視した施策が総合戦略を包含する次期計画ではより望まれるところであり、集計結果として、各設問において把握をしている。また、市民意識調査の対象者が 20 歳以上なのは、前回同様に実施したためであり、次回調査時には、検討する。ただ、今回より市公式 LINE から誰でも回答可能な、市民意識調査を一部抜粋したアンケートを実施しており、若い世代からの意見もある程度得られていると感じている。さらに、公共施設や民間事業所、駅などにまちづくり意見ボードを設置し、学生などの意見も多く頂くことができた。これらの意見についても、今後主要施策等に反映できればと思っている。

会 長：記載されている部署以上に関係する部署があるものも多いと思う。配置等についても、引き続き検討してほしい。

委 員：基本目標 2 について、PTA としては、不登校の生徒が多くなっていることが課題だと感じている。先日会議で、不登校になった場合に各家庭で金銭の問題等で困窮することもあり、保険の話があった。それだけ、全国的に不登校の子どもが多くなっている。そのため、社会を生き抜く力を養成する教育の推進に力を入れていただきたい。こどもの学校での勉強だけでなく、社会を生き抜き、成長していく上で、中 1 ギャップや高校でのギャップなどを生き抜いていく力が必要である。先日、ある校長とも話したが、普段は学校に行かないが、イベントごとの時には顔を出すこどももいるとのことだった。必ずしも子ども同士の人間関係が原因で不登校になっている訳ではなく、交流を深める姿勢はある子もいるようだ。要因としては家庭での問題も考えられるので、学校教育だけでなく、家庭教育の視点も大切に検討していただきたい。

会 長：教育については、多くの方が意識を持っていると思う。ぜひ担当課に伝えていただきたい。私から 1 点、資料 1 の 2 ページに将来像案が挙がっている。この計画を一言で表すキャッチフレーズのようなものになると思うが、現在事務局で検討中で、次回の策定審議会で示していただくという認識でいいか。

事務局：そのとおり。次回２月に行われる策定審議会において、基本構想案については本審議会と合意形成を図れればと思う。その際は、本市が８年後に目指す将来像と、今回のご意見等も踏まえた各基本目標の文言、その概要について、最終事務局案として提示する予定である。

会 長：計画全体を示すキャッチフレーズとなるので、基本目標にリンクしたものである必要があると思う。アンケートの結果等、整理していただいているが、一部に基本目標とのつながりが曖昧なものがある。整理された問題とその対応策として基本目標を設定する等、一連の流れが分かるようにしていただきたい。

委 員：資料１の２ページにある、黒の太字のところが将来像の根拠となる考え方ということであるなら、市民ニーズや市長の思い等においては「持続性」ということが様々な場面で出てきたと思ったので、その言葉も入れていいと思った。また、冊子になる時は、資料１の中にある構成分野も記載していくのか。

事務局：構成分野の名称などは基本構想においては掲載しない予定であり、基本計画内の主要施策や施策区分にて近い施策名称が記載されることはある見込み。

委 員：資料１では、健康づくりの推進など、文言が被っているところもあるので、事務局にて調整いただきたい。

## （２）その他

事務局：各委員の所属団体宛てに団体ヒアリングのシート調査をお送りしている。多数の団体に回答いただいているが、今後の基本計画等にも活用したいため、ご協力をお願いしたい。

## ４．閉会